

吉野林業と川上村、不屈の精神 国際ドキュメンタリー映画

# YOSHINO RINGYO 「吉野林業」

令和3年(2021)11月 川上村地域おこし協力隊 カパララ ディビッド氏制作

「吉野林業」は造林の歴史としては日本最古とされる。現場の地域で暮らすアメリカ人ジャーナリストのデイビッド・カパララ氏がドキュメンタリー映画を制作した。

吉野林業は、地元の人々が何世代も受け継がれてきた独自の方法で 500 年以上にもわたり檜と杉の木を育ててきた。吉野杉は木目が均一で細かく節がなく美しい。密植という技法で細かく植え、いい木だけを残す。100 年前の人が植えてくれたおかげで今生産できている。(写真右)

その発祥地とされる川上村の山行き(森林作業員)、山守(森林管理者)、樽丸(たるまる)材の加工職人の3人の仕事ぶりに焦点を当てる。

祖父の時代は丸太を集めて筏を組み、水流を利用し危険を冒して川を下って運送していた。(写真下)

吉野杉を使って酒樽の材料をつくる。木目の細かい木が樽づくりに必要で、また木香が日本酒によく合う。

造林ブームであった時代の名残として杉と檜がこの地域の山々を覆っている。森と共生しながら継承されてきた造林だが、産業としては先細っている。担い手も減っていく中で、村の過疎化が進むが、やめれば昔から育ててくれた木を台無しにし、先人の苦労を無駄にする。木と向き合い、自然と向き合い、色々の苦難を乗り越えて残っている木を手入れして後世に残すことは大切と思っている。

この地域に残る林業従事者は森林の将来を見つめながら伝統を受け継いでいく努力を続けている。

映画制作者は「吉野の森林は心がピュアになる別世界。500年もの間、バトンを渡し続けてきた不屈の精神、人と自然のつながり、その大切さが分かるよう伝えれば、うれしい」と話している。



写真提供：  
成瀬匡章氏

